

あっぱれ103歳 ジャズウクレレ奏者



現役最高齢のミュージシャン、
伝説のウクレレ奏者ビル・タピア
103歳の大往生！

毎日ウクレレを弾き続け、多くの人々にウクレレを教えていた。

米ウクレレ奏者のビル・タピア氏 (Bill Tapia)、老衰のためロサンゼルス近郊の自宅で2011年11月2日死去、103歳。1908年ハワイ州ホノルル生まれ。7歳でウクレレを始め、第一次世界大戦終戦間際、10歳で出征兵を慰問。プロデビュー。ウクレレ奏者の共通言語は音色と笑顔。ルイ・アームストロング、ビング・クロスビー、エルビス・プレスリーらとの共演でも知られる。

美しい音色と独自のパフォーマンスで、世界中のミュージシャンに多大な影響を与えた。約半年前に最後のアルバムを発表。世界最高齢の演奏家とされた。2011年12月10日に公開されたドキュメンタリー映画「マイティ・ウクレレ」では彼の生前のライブ映像が拝める。

2009年(平成21年)8月5日

水曜日

14版 2

ひと

来日公演中のジャズウクレレ奏者

Bill Tapia

ビル・タピア さん (101)

101歳でジャパントア一敢行。来日公演時の朝日新聞の記事。



ジャケット姿が、昔気質のバンドマンらしい。米カリフォルニアから7月に初来日した。味わい深いウクレレ演奏と歌声で横浜、大阪、名古屋、東京を今月9日まで巡演する。高温多湿の日本の夏にも「毎日でも演奏したい」と意気盛んだ。

1908年の元日にハワイで生まれた。7歳で初めてぼろぼろのウクレレを手に入れ、第1次世界大戦に赴く兵士の前でも演奏した。ジャズ楽団に加わるため、10代後半でバンジョーやギターに転向した。第2次大戦後は米本土に移住し、ピリー・ホリデイやルイ・アームストロングとも共演した。

現役を退いていた99年に、娘をがんで亡くした。長く介護した妻も01年に他界。「世界の終わりだと思っ

た」。ふと、地元の楽器店で数十年ぶりにウクレレを手にして弾いたら、驚いた店主が「ウクレレクラブに出ないか」。ステージで喝采を受け、生きる喜びを取り戻した。

「あちこち体は痛むけど、演奏していると全部忘れる。音楽はいいね。ウクレレはおもちゃみたいだけど、何だかって弾ける。長生きしたい人はウクレレを習うといいよ」

ライブでは、頭の後ろで演奏する背面弾きも披露するエンターテイナ―ぶりで聴衆を楽しませる。飛行機嫌いを克服し、次の来日も約束した。「おとき話だったかなうさもし君の心が若ければ」。持ち歌の「ヤング・アット・ハート」の一節を、地で行く。

文・藤崎昭子 写真・豊間根功智